

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 3 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3863390351
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
(ユニット名)	ストロベリーハウス
記入者(管理者)	
氏 名	高畑 剛
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 20 日

【事業所理念】 家庭的な温かい雰囲気の中で人間の尊厳を大切に穏やかに豊かな暮らしを支援します	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 【目標】すべての職員が、利用者様の日々の様子や職員の対応の工夫を読み手に理解ができるような記録が残せるようになる。 【結果】利用者様の言動などを記録に入れることで、利用者様の様子が読み手に分かりやすい記録になりつつある。 【目標】再アセスメント方法の見直しを行い、その方の生活歴や人物像、趣味などが理解できて、支援に繋がるようになる。 【結果】利用者様、家族様から聞いた生活歴をアセスメントシートに記録するようになった。 【目標】認知症ケアの知識、実践力を地域に情報発信して、高齢者の相談などをしやすい体制づくりをする。 【結果】運営推進会議が開催できず、情報発信の機会が得られなかった。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設して18年の歴史があるデイサービスが併設された事業所は、地域の認知症高齢者が入居する機会も多くなり、地域の社会資源としても活用されている。事業所では、利用者一人ひとりの日々の生活状況を観察しながら、生活課題を分析した介護計画を検討する仕組みが整備され、日々のサービス提供や支援に反映されている。また、コロナ禍においても、事業所に利用者が閉じこもることなく、感染状況を見計らいながら、事業所周辺を散歩したり、車を利用してドライブに出かけたり、庭で外気浴や野菜づくりをするなど、日々の豊かな生活の実現に努めている。さらに、事業所では、職員同士の情報交換も頻繁に行われ、確実な情報共有を心がけるとともに、利用者へのかかわりや支援を実践できるよう取り組んでいる。
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者様の訴えはしっかりと聴きしている。可能な限り対応するようにしている。	◎		○	事業所では調査台帳を活用して、利用者から思いや意向などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、担当職員等は利用者からの思いや意向を聞き逃さないよう努めるとともに、把握した情報は調査台帳等に記載し、職員間で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	今までのホームでの生活や生活歴から本人らしさを考えて検討をしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時や面会のときに生活歴や価値観などをお聞きするようにしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	訴えや考え方など発言内容は記録に残すようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	要望や訴えがみられるときは傾聴に努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	利用者様との会話から得られた情報をもとに家族様や知人など面会に来られた方へ話をとお聞きすることでより深く利用者様のことを理解できるようにしている。			△	入居時に、調査台帳を活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や病気に関すること、暮らしに関する情報などの聞き取りをしている。また、アセスメントシートを活用して、以前の生活史や交流関係、趣味、日常生活動作の自立状況などの情報を十分に把握しているものの、定期的な情報の更新や取りまとめが十分に行われていないため、今後は情報の更新等が行われることを期待したい。さらに、病院等を退院して入居する利用者の場合には、医療機関からの退院時情報の提供を受けることができる。今後事業所では、センター方式のアセスメントシート様式の活用を検討していることから、定期的にあセスメントを実施するとともに、介護計画の更新時に、情報が更新されることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	定期的に再アセスメントを行い、心身の状況の変化を把握するようにしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	すべてを把握できてはいないが、利用者様が気にされていることなどの把握には努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	原因が何かを職員間で話し合い、把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日誌や記録に残し、申し送りを職員間で行うことで変化があった際には周知できるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ニーズを見いだす際には、職員中心ではなく、利用者様中心に考えるようにしている。			○	事業所では、全ての職員で利用者の情報収集に努めるとともに、チーム体制でより良く暮らせるサービス内容などを検討している。また、日々の生活の中で、担当職員等は利用者から意見や要望などの聞き取りをするほか、介護計画の作成時には、家族に電話連絡などを活用して、意見や希望を聞いている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ホームが生活の場であることを理解し、本人らしさを尊重できるように心がけている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題をケアプランに反映するようにしている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人らしさを尊重したケアプランを作成するように心掛けている。				事前に、利用者や家族から意見を聞くほか、アセスメント情報をもとに、利用者毎の担当職員を中心に、職員間で話し合い、介護計画の立案を作成している。また、介護計画には利用者や家族の意見を反映させるとともに、計画の作成時には丁寧な課題分析が行われ、より具体的な目標やサービス内容などが作成されている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族様にも要望や意見を求めているおり、なるべくご家族のご要望に添えるようにしている。	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	利用者様が日課とされていたことなどがあれば、継続できるように支援をする内容を入れるようにしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	現状として家族様や地域の人たちを資源とした充足した支援内容にするよう努めている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	計画内容、具体的支援方法を可視化できるように記録するファイルに入れている。			◎	介護計画の内容は事前に話し合われ、職員は把握しているほか、個別のファイルに綴じて、職員は計画をすぐ確認できるようになっている。また、日々の生活記録用紙に、介護計画に基づいたサービスの実施内容に番号を付けて分かりやすく記載されているほか、支援の結果や利用者の発した言葉、態度などの情報を詳細に記録に残すことができている。さらに、利用者の個人記録に加えて、申し送りノートに発語内容などの記録を残すとともに、対応の工夫や気づきなどが記載され、職員間で共有することができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録にケアプラン番号を記入できるようにしており、日々の支援に繋げている。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	利用者様の発言ないようや様子などを記録化するように指示しており、実施できている。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	特記欄を設けており、記入できるようにしている。また日々の状態の変化や気づき等に関してカンファレンスに取り入れている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	計画の見直し期間に応じて再アセスメントを行っている。			○	毎月末に、担当職員が生活記録で利用者の現状の確認を行うとともに、職員間で話し合いをしながら、生活記録の下部にある「ケアプランの評価・備考」の欄に、評価を残すことができている。また、短期目標等の期間に合わせて、定期的に介護計画の見直しをしている。さらに、必要に応じて、カンファレンスを活用して職員間で話し合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1回、担当者がモニタリングを行っている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院の後や、ADLが著しく変わった場合などにはプランの見直しやカンファレンスを行っている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1回ミーティングをユニット内で行い、ケアの方法を統一したり意見を求める機会をつくっている。			○	毎月、ユニット毎にミーティングを行い、職員間で利用者の現状確認を行うとともに、介護計画の見直し内容などの話し合いをしている。また、当日会議等に参加できない職員には、事前に意見を聞いている。さらに、会議の議事録は全ての職員に配布するなど、きっちとした情報伝達が行われている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員が主体となって会議を行うことで意見交換をしやすい雰囲気となっている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出勤者が多い日に実施するようにしている。参加ができない職員からも事前に意見を求めるようにしている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成して配布するようにしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートに伝達したい内容を記載するようにしている。職員は出勤時に確認をするようになっている。			◎	事業所では申し送りノート等を活用して、利用者に関する情報が伝達される仕組みづくりができている。また、職員は出勤時に申し送りノート等を確認するとともに、確認後には職員本人の名前の欄に○印を付けて、確実な情報伝達に繋げている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	申し送り事項は申し送りノートや書面で周知するとともに、職員の業務の引継ぎ時にも伝達するようにしている。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者様から要望があれば応えることができるように努めている。				事業所では、利用者一人ひとりの一日の生活の流れを把握するとともに、日々の生活の中で、着る衣服を利用者自身が選んだり、レクリエーション活動を選択したりするなど、自己決定ができる機会を設けている。また、個別に新聞を配達してもらい、毎日読んでいる利用者もいる。さらに、雑誌を読んだり、畑で野菜づくりをしたり、編み物をするなど、利用者の好みや得意な活動を活かした支援にも取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣類の選択などご自分で好みを選んで頂くような対応を行っている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者様の認知機能に合わせて質問の方法を使い分けている。できる限り納得して頂けるようにしている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	基本的な食事などの提供時間は決まっているが、利用者様の体調や習慣に応じて対応をさせてもらっている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	明るい話題や興味をもつてくださる話題を言葉かけ時にはするようにしている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	言葉かけ時には表情を見て様子を見て返事を返している。返事ができなくても、聞こえている、分かっていると思い対応や言葉かけを行っている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	接遇研修で利用者様の尊厳を傷つけない言葉かけや対応について学んでいる。	◎	○	○	事業所では、年間の研修計画を立てて、接遇研修を行い、職員は利用者の尊厳を大切にしたい支援に努めている。また、利用者へのかかわり方や声のかけ方など、管理者等はカンファレンスの時に気になる点がある場合には職員に伝えることを心がけている。さらに、居室への入室の際には、利用者に声かけをしてから入室をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	意識して行動をしているが、時折、できていないことがあるため気を付けたい。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	入浴時の脱衣場や居室で排泄ケアを行う際には戸を閉めてプライバシー保護に努めている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室内での過ごし方や職員の出入り等の際は、お声掛けをさせて頂き、プライバシーに配慮するようにしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	十分に理解をでき、遵守できている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事に参加して頂いた際や協力をしてくださったとき、利用者様から教えて頂くことがあった際には感謝の言葉を伝えている。				日々の生活の中で、職員は利用者により家事などを協力していただいた際に、感謝の言葉を伝えている。また、事業所では、意識して利用者同士が助け合いながら、生活が送れるような支援にも努めている。さらに、職員は利用者同士の関係性に配慮し、トラブルが起らないような雰囲気づくりを心がけている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	「共生」という意味を理解し、助け合う大切さや労りについての大切さを理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員は、各利用者間の人間関係等を把握するように努めている。トラブル等に発展する事はないが、孤立したりしないよう常に個々の配慮に努めるようにしている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに発展するような事はないが、その恐れがある場合には、職員が介入させて頂き、程よい距離を保てるように支援をしている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	ご本人から伺ったお話や生活歴、家族様からの情報を基に把握するよう努めている。関わり合いの中で新たな情報などを得る事もある。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日々の生活をしていく中で伺ったお話を基に馴染みの場所などの把握に努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	知人や友人からの便りや面会があるが相手方も高齢であるため頻度は少ない。こちらから伺うことはできない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気軽に来て頂けるように家族様、知人の方などにはお伝えをしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外気浴や散歩などで戸外で過ごす時間をできるだけ作るようにしているが、毎日実施できていない。	○	×	○	コロナ禍においても、事業所では人との接触がないような配慮を行いながら、近隣の神社までお参りに出かけたり、事業所周辺を散歩したり、車を利用してドライブに出かけるなど、利用者が気分転換を図れるような支援をすることができている。また、天気の良い日には、車いすを使用している利用者も一緒に屋外に出て、庭で外気浴をしたり、お茶を飲んだり、畑でカブやそら豆などの野菜づくりなどを行うことができている。さらに、外出が減っている代わりに、事業所内でプランターに野菜を植えたり、しめ縄作りをしたり、夏祭りなどの行事を取り入れるなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援ボランティアの活用はできていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	外気浴をして頂き、外気に触れる機会をつくっている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族様と外出に行かれることはあるが協力して外出支援を行えてはいない。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する研修を実施しており、行動・心理症状についても理解しつつある。認知症の周辺症状には原因があるということも理解できており、原因の究明に努めている。				事業所内研修等で、認知症をテーマに取り上げて、職員は認知症の行動や症状などを理解している。また、事業所では、利用者の心身機能を維持するために、「どの部分を介助すればできるのか」など、細やかで具体的なアセスメントを行うとともに、職員は声をかけをして、利用者自身ができることは自分でしてもらい、見守りや待つ介護などの対応を心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	日々の生活のなかで、残存機能の保持ができるように支援を行っている。認知症の人に生じやすい身体面の機能低下の特徴までは全職員が理解できるよう努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	車いすの自走や入浴時の洗身など、時間を要してもご自分でできる方には見守りや声掛けの対応をさせて頂いている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様の残存機能を把握することで何ができるか、楽しみを持った役割や出番をつくることのできるかを把握している。				洗濯物やタオルたたみ、調理の下ごしらえ、配膳、下膳、テーブル拭き、モップ掛けなど、事業所では利用者自身ができることをしていただき、役割や達成感などを感じてもらえるよう支援している。また、工作やちぎり絵で飾り物を作るなど、楽しみを活かした出番や役割づくりを取り入れることができている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者様の理解力や能力に応じた役割や活動を提供するようにしている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	新型コロナウイルスの影響で、感染予防の為、地域行事への参加が出来なかったが、状況を見ながら地域の一員として参加していきたい。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	△	その人らしい服の好みなどは、アセスメントやご家族からの聞き取り等により把握するように努めている。				毎日、朝と夕方に着替えを行い、重度な利用者にもメリハリが感じられるような支援に努めている。また、自分で服を選び、着替えることのできている利用者があるなど、季節や状況に応じた服装ができるよう支援している。さらに、介護計画のサービス内容等に取り入れて、化粧やネイルなどのおしやれを楽しむことができている利用者もいる。加えて、食事の際には、なるべくタオルで対応し、食べこぼしや汚れが目立たないような工夫もしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	衣類の購入をしてくださっている。利用者様の好みの衣類を家族様が選ばれている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	気候や体調などを配慮しつつ、その日の気分に応じて衣類を選んで頂いている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時にはおしやれ着や行先に適した衣類を選んですすめている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご本人の自尊心を気づけけないように配慮しながら支援をさせて頂いている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	利用者様から散髪店の希望はでていない。施設に訪問してくれる理髪店に依頼をしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	利用者様が好まれる色の衣類を着て頂くようにしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の過程を研修で学んでおり、食事を摂ること、楽しく食べることについて理解している。				事業所では、食材の宅配サービスを利用し、届けられた食材を、利用者に調理の下ごしらえやテーブル拭き、下膳などを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。事前に職員が毎月意見を伝えて、委託業者の管理栄養士がバランスの取れた献立を作成するとともに、利用者に季節を感じてもらえるような行事食も提供することができている。入居時等に、利用者の好き嫌いやアレルギーなど、食事に関するアセスメントを行い、アレルギーや水分量、刻み、とろみなど摂食機能に応じた食事形態などにも対応をしている。また、調理の下ごしらえなど、できることを手伝ってもらい、オープンキッチンからの匂いや音も加わり、利用者が食事を楽しみ、待ち遠しくなるような支援にも努めている。さらに、食事の際には、職員は利用者の見守りやサポートを行い、現在は感染対策で、別々に食事をしている。加えて、ミーティング等を活用して、食事の栄養バランスなどを職員間で話し合うことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	できる限り、可能な内容に参加をして頂いている。参加が困難な方でも、少しでも下膳をして頂くなどしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者様のできる能力に応じて参加をして頂き、充実感や達成感を得て頂いている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	食事をされているときの様子や残されたものから好き嫌いは把握できている。入所時にアレルギーに関してもアセスメントしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	宅配にて食材等を利用している。週刊献立表にてご利用者様には確認し、選定して頂くようにしている。その人の好きなものや食べれないものなどの把握はしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	毎回の食事の様子やその他の情報を鑑みて、食事形態や食事を決めている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個人の箸などを使用して頂き、大切に使用していただく馴染みのもので食事をされている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	自尊心を傷つけないように配慮をしつつ、配置換えや食べこぼしの対応をしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	台所に近い場所で、調理の香りや音、雰囲気を感じて頂くようにしている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	毎月、体重測定を行い、必要に応じて医師や訪問看護師に相談を行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	こまめに水分を提供したり、摂取しやすい食事形態を模索したりして、低栄養や脱水を予防している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養バランスや一日の摂取カロリー等を確認しながら職員間で話し合っている。宅配業者からのアドバイスも必要な時に頂くようにしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	新鮮な食材の使用と衛生管理に努め、食器類の消毒はこまめに行っている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアに関する研修を実施して、口腔内を清潔に保つことの重要性を理解できている。				毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りや介助をしている。自分で歯磨きをすることができている利用者も含めて、職員は磨き残しがないか確認するなど、全ての利用者の口腔内の状況を点検することができている。また、事業所では、週1回訪問歯科診療があり、歯科医などから専門的な助言をもらうことができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアを毎食後に行うことで把握ができている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	新型コロナウイルス感染症予防の為、直接的な勉強会や指導等は受けていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯洗浄剤を使用し、適切に手入れが行えている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケア時に確認を行い確認を行えている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	必要に応じて受診をして頂いている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	オムツの使用が利用者様の自尊心を傷つける可能性があることを理解して、使用の検討をカンファレンスなどでしている。できる限り、トイレでの排泄が維持できるように努めている。				事業所では、利用者一人ひとりの体調や排せつ状況を毎日チェックし、食事量や水分量などを踏まえて、排せつへのかかわり方を検討している。また、日中には可能な限り利用者に布パンツで過ごしてもらい、尿取りパッドなどを活用して、職員はできる限りタイムリーな交換を行うなど、蒸れが少ないような状態を目指した支援にも取り組んでいる。さらに、便秘の利用者には、食物繊維や水分を多く摂取してもらうほか、歩行や運動を取り入れるなど、職員は自然な排便ができるよう心がけている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘の原因やそれによって生じる影響を理解している。認知症ケアと便秘症が関連していることは研修でも学んでいる。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄のパターンを把握することで、不快感なく過ごすことができるタイミングで排泄ケアを行うように努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	体調やADLの変化をみて、排泄ケアの方法を検討している。できる限り、トイレでの誘導ができないかを考えている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	毎回の介助時やカンファレンス時にアセスメントを行い、検討をしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄のパターンの把握に努めている。職員間で情報を共有することで、排泄の失敗を防ぐように努めている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	基本的には職員がその方に合ったものを選ばせて頂いている。使用の前にはご本人が家族様にそのオムツなどの必要性を伝えて相談をしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中と夜間で使い分ける、外出時のみ使用するなどの対応をしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	便秘症の方には水分量を多く摂って頂くなどの対応をしているが、緩下剤を内服しないと排便が無い方もおられる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴の時間は決まっているが、体調に考慮しつつ、入浴の長さや湯温などはご本人の好みに合わせて設定している。	◎		○	事業所では、週2回の入浴支援を基本として、利用者の状況に応じた声かけや誘導を行っている。また、入浴時間の長さや湯の温度など、利用者の好みに応じた対応をしている。また、シャワーチェアや手すり、安易にスライドできる用品などを活用して、個別浴槽に車いすを使用している利用者も湯船に浸かれるよう工夫しながら、安心安全な入浴を支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個別浴で対応をさせて頂き、ゆっくり入浴ができている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	洗身、洗髪などは可能な範囲でご自分でして頂いている。浴槽へのまたぎ動作なども必要な範囲での介助で行えている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒まれる場合には無理には入らずに時間をかえるなどの対応をしている。無理に入ること入浴が嫌いにならないように配慮をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	職員間の申し送りやバイタルをみて、入浴の可否を検討している。場合によっては訪問看護師へ相談をしたりもしている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	職員が日中の業務と夜動を行っているため、睡眠のパターンの把握ができています。				事業所には、本人の希望で眠剤等を服薬している利用者がいるものの、できる限り服薬に頼らない支援に努めている。また、日中の活動を工夫したり、日中の休息時間を活用したりするなど、様々な工夫を行いながら、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。さらに、現在はほとんどの利用者が良眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転気味の利用者様がおられる場合は、日中の活動を見直したりしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	定期受診時に日々の様子を専門医に報告して、適切な処方されるように情報提供を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ホールのソファや居室に戻りやすい雰囲気を作っており、体調に応じて仮眠をされている方もおられ休息時間を確保している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者様、家族様が希望されるときは電話でお話をされている。お手紙が届いた際はご本人にお渡ししている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	家族様へ代わりに用事を伝えたり意思の疎通が困難な方でもオンラインによる面会を実施している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族様の都合など考慮しつつ可能な限り要望に沿えるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	利用者様にお渡ししたり必要に応じてお返事を書いて頂いている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話で話されることで安心して頂けることもあることを家族様には理解して頂いている。可能な限り協力して頂くように依頼をしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご自分で買い物ができることが自立支援に繋がることを理解できている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	家族様、職員が代わりに希望されているものを購入している。新型コロナウイルスの影響で買い物に行く機会がつかれていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	新型コロナウイルスの影響で買い物に行けていない。再開できた際には実施していきたい。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	現在、お金を所持されている利用者様はいない。ご本人、家族様が希望をされた場合は、相談をしながら所持ができるように支援したい。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	利用者様が所望される物品の購入などは家族様と相談をしながら購入させて頂いている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	現在、施設で金品の管理を行っていない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	できる限りニーズに沿えるように相談を行いつつ対応を行っている。既存のサービスだけでなく地域の資源を活かすことができるように努めている。	◎		○	コロナ禍において、事業所では外出や面会制限は設けられているものの、利用者や家族の要望には、相談を行いながら、可能な範囲で対応をしている。また、「娘に会いたい、入歯を調整して欲しい」などの要望が出され、事業所では、面会や外出、歯科診療など、利用者の個別ニーズへの対応にも努めている。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関周りを常に清潔に保ち、花壇を設置して明るい環境づくりを心掛けている。	◎	◎	◎	併設されているデイサービスと共用の玄関にはガラス張りの自動ドアの設置があり、玄関内の見通しが良いほか、玄関フロアに事務スペースがあることから、職員は利用者や来訪者に気軽に声をかけることができる。また、玄関先にはプランターが置かれ、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	利用者様に馴染みのある時代のポスターを掲示したり、季節感のある掲示物、利用者様と一緒に作成したものなどを壁に掲示している。	○	○	○	事業所の廊下には、利用者と一緒に作った季節を感じる壁画のほか、椿や桜などの作品、似顔絵を描くのが得意な利用者が描いた職員の似顔絵が飾られている。また、毎月の行事写真のほか、昔の写真やポスターなども飾られ、利用者や来訪者が気軽に見て、会話が弾むよう工夫されている。さらに、オープンキッチンから、職員はリビングで過ごす利用者の様子を見渡すことができる。加えて、事業所内は毎日掃除や消毒、換気を行い、清潔で快適な環境が確保されている。2階のベランダからの眺めは良く、天気の良い日には、石鎚山系の絶景を眺めることもできる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除を行っていて、清潔を保っている。オムツの臭いがないように新聞で包むなどの対策も行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節を感じることもできる写真や掲示物を壁に掲示している。午前にはコーヒーをドリップして淹れることで利用者様からも「いい香り。」と良い評価を頂いている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ホールにソファを設置してゆっくりテレビを見たりして過ごして頂けるようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室の使用時には戸を開めるように心がけて配慮を行っている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	在宅時に使われていたタンスや置物などを持参して頂き、馴染みのある環境で安心して過ごすことができるように支援を行っている。	○		○	居室には、電動ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられている。また、利用者は馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができ、テレビや家具、家族の絵、誕生日カードなどが飾られ、利用者に合わせた個性のある空間づくりができている。さらに、以前の職業で、白衣を飾っている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室やトイレの場所が分かるように掲示をしている。利用者様の動線は安全であるように気を付けつつ環境の整備を行っている。			○	居室の入り口には、名札や目印となる造花などが飾られ、自分の部屋が分かりやすいよう工夫されている。また、事業所内には和式トイレの設置も残されており、在宅での生活習慣など、利用者の状況に応じて使用できるようにになっている。さらに、事業所はバリアフリーの構造で、手すりも設置されているほか、廊下も十分な広さが確保され、利用者は安心安全に移動することができる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認知症によって混乱を招くようなものが配置されていないように気を付けている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	昔の映画のポスターや写真、馴染みの地域の写真などを掲示したり、季節に合わせて花を掛けて頂いたりしている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	鍵がかかっていることで生じる心理的な負担や家族様や地域の方への印象などを理解できている。外へ行きたいという気持ちのある利用者様への関わりは、否定をせずに意思を伺い傾聴をするように努めている。	◎	◎	○	事業所では、日中に玄関やユニットの入り口は開放され、利用者や来訪者は自由に出入りできるようになっている。また、事業所には、帰宅願望などの不穏な利用者もあり、職員の勤務体制などで、一時的にやむを得ず、ユニットの入り口を施錠する場合もある。さらに、適宜、利用者は庭や洗濯物干し場へ出入りすることもでき、閉塞感を感じられない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	構造上の問題もあり、話し合いはできていない。利用者様が望まれる際は屋外へ職員と出ていることはお伝えしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関の鍵は開錠しているがユニットへの出入り口はオートロックのため自由に出入りできない。利用者様が希望される際は職員が付き添い屋外へ出るようにして、心理的な弊害が生じないようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴や現病についてはまとめており、職員が確認できる場所に保管をしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	体調の変化がみられた際には記録化するようにしている。医師への情報提供のためにもバイタルの測定を行っている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	週2回の看護師の訪問時や医師の往診時には、些細なことでも相談ができています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	協力医療機関を紹介させて頂いてはいるが、希望があれば、希望される医療機関で診て頂いている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	医師への報告を密に行うことで適切な医療を受けられるように努めている。受診や往診時に利用者様、ご家族様の意思を伝えるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	かかりつけ医からの指示など必要に応じて家族様に報告を行っている。状況によっては受診に付き添って頂き、医師から直接診断や今後の方針などを聞いて頂くようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	認知症の周辺症状が悪化しないようにできる限りご本人の情報を提供するようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中も定期的に病院と連絡を取り、病状が施設で対応可能な範囲を相談している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	かかりつけ医が入院先を紹介してくれる。医師が入院する病院への引継ぎをしてくれることでスムーズに入院の手配ができています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護師の訪問が週に2回ある。同法人の訪問看護ステーションであるため気兼ねなく相談や報告ができる環境である。必要な指示や情報を得ることができている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護ステーションへ、24時間いつでも電話対応ができるようになっている。場合によって様子を見に来てもらっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	少しでも体調の変化があった場合はかかりつけ医や訪問看護ステーションに相談をして、医療職が判断をするようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋を職員が見ることができるようになっており、薬の理解をするように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬する際は、必ず2人で確認をするようにすることで、誤薬や飲み忘れの予防に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	処方薬が変更されたときには特に注意を払っている。状況に応じて次の受診日より早く、受診を行ったりして利用者様に負担がないようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	心身の変化を観察して、記録化に努めている。看護師や医師への情報提供も行っている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時には、重度化した場合は看取りに関しても説明を行い、利用者様、家族様の意思を尊重して対応をさせて頂いていることをお伝えしている。				事業所には、「看取りに関する指針」と「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時等に利用者や家族に説明をしている。また、事業所では、協力病院の医師や訪問看護ステーションの看護師との応援体制が整っており、利用者や家族、職員は安心感がある。さらに、定期的に実施する事業所内研修で、看取りに関する研修も行われ、職員は対応方法などを学ぶことができている。加えて、重度化や終末期には、家族や医師、関係者を交えて話し合い、方針を共有するほか、事業所内で対応できない場合には、病院や他の施設へ転院している利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化終末期の対応についてはかかりつけ医と相談をして施設で対応ができるかを判断している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	施設の設備や職員のマンパワーの把握に努め、終末期の対応をする場合に説明ができるようにしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	施設の設備や環境などをお伝えするようにしている。理解を得られた上で、対応をさせて頂くようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	職員研修で看取り対応に関する研修を行っている。かかりつけ医と訪問看護ステーションと連携を図りながら支援できる体制ができています。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	こまめな近況報告を行い、分からないことが無いかなど相談がしやすいような関係性をつくるように努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症に関する研修を行ったり、管理者が感染症に関する情報を職員に提供することで知識・理解を深めるようにしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	嘔吐があった場合の対応キットを準備したり、新型コロナウイルス対策にガウンなどの備蓄品の補充を行った。使用方法など訓練を行っていないため、実施していきたい。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	市や県からの情報を管理者が確認することで、市内や県内の感染症の発生状況など情報を得られるようにしている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	包括支援センターや地域の役員の方から情報を得られている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は標準予防策の徹底を行い、施設へ持ち込まないように努めている。利用者様、来訪者に関しても手指消毒に協力して頂いている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には職員がご家族へ近況報告を行っている。些細なことでも報告するようにしている。				コロナ禍以前は、夕涼み会などの行事に家族の参加を呼びかけて、参加協力してもらうことができていたものの、現在は家族の呼びかけを自粛している。コロナ禍において、事業所ではガラス越しでの面会となっているものの、IT機器を活用したオンライン面会にも対応をしている。また、LINE機能を活用して、リアルタイムの利用者の写真などを送付するなどの対応もしている。さらに、年2回法人全体で広報誌を作成するとともに、日常の写真と担当職員が書いた手紙を家族へ届けることで、利用者の日常生活状況を理解していただけるよう工夫をしている。さらに、面会時には、積極的に職員から家族に声をかけて、利用者の様子を伝えるほか、意見や要望を聞き、対応をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時には明るい挨拶を行うように努めており、気軽にお話ができる関係性の構築を図っている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	外出や買い物など家族様と行かれている方もいる。新型コロナウイルスの影響で現在は実施できていない。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	年に2回、広報誌を作成してお送りしている。運営推進会議の資料に活動の様子として写真を多く添付し、お送りしている。ケアプランの送付時にも職員からお手紙をつけて送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	電話や来訪時に知り得た、家族様の感じていることなどは、お答えするようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時など、認知症によって意思の疎通が難しくなった利用者様に職員が付き添い、家族様との良好な関係性が保てるように支援をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議の機会を利用して報告をさせて頂いている。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議の開催時に催しなどを予定している。開催が可能となった際には実施していきたい。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者様の気持ちを優先したケアが行えるように、安全策を講じるとともに、事故発生のリスクについても説明を行うようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時のあいさつや職員から積極的に家族様へ話しかけることで気軽に質問や相談ができる雰囲気づくりをしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には具体的に説明を行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に当たっては利用者が一番良い形で退居に移れるように家族様と話し合いを設けて支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	書面を基に説明を行っている。同意を得た上で契約を結んでいる。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を利用して説明を行い、地域に貢献できるように意識を持っている。		○		事業所では、地域の祭り毎に利用者と一緒に参加するなど、神輿が玄関先にまで来てくれる関係性が築かれている。また、コロナ禍以前は、公民館活動などにも参加することができていた。さらに、地域の民生委員や区長などの協力を得て、運営推進会議等を活用して話し合いをするなど、地域との関係づくりもできている。加えて、事業所前の道路を散歩する地域住民も多く、顔馴染みとなり、日常的に利用者が挨拶を交わす関係性もできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	神輿の経路に入れて頂き、地域行事への参加をさせて頂いている。施設前の道を近隣の方が散歩に良く使われているためあいさつをさせて頂き関わりを持つようにしている。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	近隣に住宅がありません。地域の役員の方が気にかけてくださっている。				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	気軽に立ち寄ったりしてくださる地域の方はいない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩に出かけた際にすれ違う地域の方とあいさつをしたり、お話をしたりする機会が増えつつある。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	現状、ボランティアの受け入れを行っていない。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	施設の近くに池やお宮があり散歩コースとして利用させて頂いている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	市内の理容室に施設へ来て頂き散髪を依頼している。消防訓練の実施時には隊員の方に来て頂いている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	地域の方には毎回参加して頂いている。家族様の参加者も増えつつあったが新型コロナウイルスの影響で文書開催となった。	◎		○	運営推進会議は、利用者や家族、地区の区長、民生委員、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催をしている。コロナ禍において、現在は書面開催となっているものの、写真を多く掲載して情報提供を行うなど、利用者の日常生活の様子が分かりやすい会議報告を、参加メンバーや全ての家族に送付することができている。また、区長や民生委員、地域包括支援センター、市担当者から、要望や助言などをもらうとともに、事業所としての考え方も示すことができている。今後、管理者等は、「コロナ禍以前は地域の方々にも毎回参加していただいており、終息後には集合形式の会議を再開したい」などと考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	会議出席者だけでなく、参加できなかったご家族にも文書で報告を行っている。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者から頂いた意見に対して説明を行ったり、要望に対する取り組みを次の活動状況の報告でお伝えさせて頂いている。		○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程の調整は参加される方の都合を伺い調整している。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	いつでも閲覧できるようにファイリングして玄関ホールに設置している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホームは生活の場であるため「家庭的な雰囲気」で安心して過ごして頂けるように意識をして支援を行っている。「尊厳」を守るために接遇には気を付けるようにもしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念を玄関ホールに掲示しており、入所時にお伝えをしている。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	施設内研修を毎月行っている。希望者は法人外の研修にも参加をして知識・技術の研鑽を図っている。				事業所では、研修の年間計画を作成し、接遇や看取り、医療行為、認知症などに関する内部研修を行うとともに、リモートでの外部研修などの参加を勧めるなど、職員のスキルアップに努めている。また、研修に参加した職員には、感想や目標を提出してもらうほか、ベテラン職員に就く形で新人職員の教育が行われるなど、法人・事業所として、日常的な事業所内研修(OJT)の体制づくりが構築されている。さらに、年1回、法人の施設長との個別面談が行われるとともに、職員は相談しやすい体制づくりができています。加えて、法人・事業所として、人事管理の評価やストレスチェックを実施するとともに、希望休や有給休暇の取得にも対応するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	新人職員や異動してきた職員には、ベテラン職員と一緒に勤務となるように組んでいる。業務内容だけでなく、利用者様の細やかなケア方法や介護技術や知識を伝える機会をとれている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の職員の評価を行い、賞与や昇給によって職員の努力や実績が反映されるようになっていく。希望休や有給休暇の取得も相談しやすいように管理者が心掛けている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会が主催する研修へ参加をすることで同業者との交流の機会を得ている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	施設長が管理者や職員と面談をする機会を設けて、職員の悩みや機能などを知ることができている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待防止に関する研修を行っている。接遇に関しても丁寧な言葉掛けを行うように意識をしている。全職員が不適切なケアに関しての理解をできている。				事業所では、虐待防止等の研修が行われ、職員は学んで理解をしている。また、日々の業務の中やミーティング、研修等を活用して、どのような行為が不適切なケアに該当するかなどを職員間で話し合う機会も多く、職員同士で注意し合える雰囲気づくりができています。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者が職員のケアで気になることがあれば指導を行っている。どのように接すれば良いかを職員と一緒に考えている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員ひとりひとりが虐待や不適切なケアが見逃されないよう注意を払っている。また、どのような場面・状況が不適切なケアに当たるのか日々話し合っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	労務管理を行っている管理者が、できる限り運動が多くならないように勤務を作成するようにしている。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員ひとりひとりが、身体拘束にあたる事例や具体的なケース等を話し合い、理解している。研修会も定期的に行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者の現場の状況に合わせて定期的に点検して随時、どのような事象が身体拘束に当たるのか話し合う機会を設けている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を行っている方は、おられないがその弊害について職員間で理解を深めている。ご家族の方にも「身体拘束しないケア」について理解をして頂いている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	管理者は理解を深めるように取り組んでおり、全職員には周知徹底するように努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	評価期間で制度を紹介する機会や相談はなかった。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要な利用者が制度を利用できるように専門機関と連携を図っている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時のマニュアルがあり、いつでも職員が確認できる位置にある。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	全ての職員がAEDの使用法や応急手当を定期的な研修を通じて確認している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットの作成を行い、職員間でリスクの共有に努めている。軽微な内容でも報告を上げるように管理者は職員に指示している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンス時にリスクマネジメントに関しても議題に上がることが多い。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは作成している。苦情に対して真摯に向き合うように努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情を受けてはいないが、利用者様や家族様からの苦情はマニュアルの沿って対応を行うようになっている。利用者様、家族様の意見へ耳を傾けるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情等や要望に関する事案は、速やかに対処するようにしている。経緯や結果等も記録するようになっている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議への参加を勧めたり、普段から利用者様へ耳を傾けて要望を言いやすい機会をつくっている。			○	日々の生活の中で、職員は利用者から気になることや意見などを聞き取り、相談の上で対応をしている。定期的に家族から意向を確認する機会があり、意見や要望などを聞くほか、面会時に職員から声をかけ、要望や相談に応じている。また、事業所の玄関には意見箱を設置するとともに、苦情受付などの連絡先も掲示されている。さらに、日々の業務の中で、管理者は職員からその都度意見や要望を聞くほか、ミーティングの中でも意見などを聞く機会を設けることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族様の面会時や運営推進会議を通じて個別に要望や意見を聞く機会を設けている。ケアプランの見直し時もお手紙で意見を頂くようにしている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情に関する相談窓口の情報を玄関ホールに掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者が職員と面談を行い意見や要望を聞く機会がある。管理者が代弁して代表者へ報告を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的なミーティングにおいて、職員の意見や提案・要望事項などを聞く機会を設けており、反映している。			○	

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解できており、各々の職員が自身の振り返りになっている。				外部評価の自己評価は全ての職員で取り組み、意見を出し合いながら作成を行うとともに、今後の目標を作成して実践している。また、サービスの評価結果は、運営推進会議などの中で報告しているものの、十分な取組み状況のモニター機能までには至っていない。コロナ禍の収束後には、運営推進会議を活用して、サービス評価の取り組みやモニター機能を再度説明を行い、会議の参加メンバーや家族にモニターの協力を呼びかけたり、行事と合わせて会議を開催したりするなど、モニターの体制づくりを行い、意見を取り入れながら、さらなるサービスの向上に活用されることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の課題が明らかになることで、今後の取り組み活かすことができるようになっている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	自己評価の結果を通して可能な目標達成をつくり、全体で取り組みを行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議などで公表して助言を頂くようにしている。今後の取り組みに関しては、モニターとしての依頼まではできていない。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	運営推進会議などで公表して助言を頂くようにしている。経過報告は随時行うように努めている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	様々な災害（火災、地震、風水害など）を想定したマニュアルを作成して手に取れる位置に置いている。				法人・事業所として、火災や地震、風水害などに関するマニュアルを作成している。事業所では併設のデイサービスと協力をしながら、年2回、昼夜や様々な災害を想定した避難訓練を実施している。また、災害の発生時には、建物2階への垂直避難や、法人の他の施設への避難を予定している。さらに、法人として、水や食料などの備蓄品を用意することができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年間計画で災害を想定した訓練を実施している。夜間想定も行っており利用者様も参加して頂いている。併設のデイサービスセンターも合同で行うことで防災意識を高めている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備の点検や修理などは、外部機関にて定期的に行っている。非常災害時の非常食や備品など保管場所を定め、定期的に賞味期限などの点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署立ち合いのもと、火災訓練を行ったりしており協力・支援体制を図っている。	△	×	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の防災に組み入れしてもらっている。地域の役員の方から情報を提供して頂いている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議の機会で認知症ケアや介護に関しての情報発信を行っている。				複合施設・事業所として、地域住民からの理解は深まりつつあるものの、相談実績は少ない状況となっている。また、事業所前が地域の「ちよい乗リタクシー」の停留所として、協力することが決定しており、地域への貢献活動にも協力をしている。今後は、地域の認知症に関する拠点として認識されるように、法人や地域包括支援センターなどの関係機関と協力をしながら、より多くの相談にも対応できるように地域との繋がりを強化したり、積極的に地域における認知症への理解を深めたりできる活動を行われることを期待したい。さらに、市行政や地域包括支援センター、他の事業所などと連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の高齢者の方から相談があれば、相談支援を行いたい旨を地域の役員の方に伝えている。相談等の実績はない。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	地域の秋祭りには、事業所を使用してもらい、地域の人たちが集う場所として活用して頂いている。今年度は新型コロナウイルスにより開催できなかった。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	労働安定所からのご紹介で研修生の実習の場として提供をしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域の「小野地区福祉の集い」には毎年参加させて頂き、地の一員として活動を共にしている。今年度は新型コロナウイルスにより開催がされなかった。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 3 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3863390351
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
(ユニット名)	ブルースカイ
記入者(管理者)	
氏 名	高畑 剛
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 20 日

【事業所理念】 家庭的な温かい雰囲気の中で人間の尊厳を大切に穏やかに豊かな暮らしを支援します	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 【目標】すべての職員が、利用者様の日々の様子や職員の対応の工夫を読み手に理解ができるような記録が残せるようになる。 【結果】利用者様の言動などを記録に入れることで、利用者様の様子が読み手に分かりやすい記録になりつつある。 【目標】再アセスメント方法の見直しを行い、その方の生活歴や人物像、趣味などが理解できて、支援に繋がるようになる。 【結果】利用者様、家族様から聞いた生活歴をアセスメントシートに記録するようになった。 【目標】認知症ケアの知識、実践力を地域に情報発信して、高齢者の相談などをしやすい体制づくりをする。 【結果】運営推進会議が開催できず、情報発信の機会が得られなかった。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設して18年の歴史があるデイサービスが併設された事業所は、地域の認知症高齢者が入居する機会も多くなり、地域の社会資源としても活用されている。事業所では、利用者一人ひとりの日々の生活状況を観察しながら、生活課題を分析した介護計画を検討する仕組みが整備され、日々のサービス提供や支援に反映されている。また、コロナ禍においても、事業所に利用者が閉じこもることなく、感染状況を見計らいながら、事業所周辺を散歩したり、車を利用してドライブに出かけたり、庭で外気浴や野菜づくりをするなど、日々の豊かな生活の実現に努めている。さらに、事業所では、職員同士の情報交換も頻繁に行われ、確実な情報共有を心がけるとともに、利用者へのかかわりや支援を実践できるよう取り組んでいる。
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者様との会話や表情から思いをくみ取り、希望に添えるようケアをしている。	◎		○	事業所では調査台帳を活用して、利用者から思いや意向などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、担当職員等は利用者からの思いや意向を聞き逃さないよう努めるとともに、把握した情報は調査台帳等に記載し、職員間で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	意思の疎通の難しい方には、しぐさや表情などから秘めている思いをくみ取るようにしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族様とのコミュニケーションを図り、情報を得ている。ご家族様からの意見を頂いている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人ファイル、日誌の記録を行い、職員間での情報共有が行えている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間での話し合いを行い、職員目線にならないよう、注意している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	ご家族様から、過去の生活歴や好みをお聞きし、日々のケアに生かせるよう配慮している。			△	入居時に、調査台帳を活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や病気に関すること、暮らしに関する情報などの聞き取りをしている。また、アセスメントシートを活用して、以前の生活史や交流関係、趣味、日常生活動作の自立状況などの情報を十分に把握しているものの、定期的な情報の更新や取りまとめが十分に行われていないため、今後は情報の更新等が行われることを期待したい。さらに、病院等を退院して入居する利用者の場合には、医療機関からの退院時情報の提供を受けることができる。今後事業所では、センター方式のアセスメントシート様式の活用を検討していることから、定期的にあセスメントを実施するとともに、介護計画の更新時に、情報が更新されることを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	体調を見ながら、残存機能の活用を行うケアを心掛けている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	一日の流れの中で、不安な場面が有れば、記録や口頭にて、情報共有を行うようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不安定になる時間や場면을把握し、要因について考えるよう努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人ひとりの体調や状態に合わせた暮らしの提供が行えるよう配慮している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご家族様から頂いた情報を元に、その方の今の状態に合わせたケアの提供を考えるようにしている。			○	事業所では、全ての職員で利用者の情報収集に努めるとともに、チーム体制でより良く暮らせるサービス内容などを検討している。また、日々の生活の中で、担当職員等は利用者から意見や要望などの聞き取りをするほか、介護計画の作成時には、家族に電話連絡などを活用して、意見や希望を聞いている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	場面場面で、何を求めておられるか考え、少しでも思いがくみ取れるよう努めている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスやケア会で話し合いを行っている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	その方が抱えている課題の解決に繋がる、計画書の作成を心掛けている。				事前に、利用者や家族から意見を聞くほか、アセスメント情報をもとに、利用者毎の担当職員を中心に、職員間で話し合い、介護計画の立案を作成している。また、介護計画には利用者や家族の意見を反映させるとともに、計画の作成時には丁寧な課題分析が行われ、より具体的な目標やサービス内容などが作成されている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	利用者様や家族の思いをくみ取れるよう、職員間で意見を出し合っている。	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ご家族様から得た情報を元に計画作成を行っている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族様から来所された際には、生活状況をお話しし、コミュニケーションを取り、協力体制の構築に努めている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画を職員一人ひとりが理解できている。			◎	介護計画の内容は事前に話し合われ、職員は把握しているほか、個別のファイルに綴じて、職員は計画をすぐ確認できるようになっている。また、日々の生活記録用紙に、介護計画に基づいたサービスの実施内容に番号を付けて分かりやすく記載されているほか、支援の結果や利用者の発した言葉、態度などの情報を詳細に記録に残すことができている。さらに、利用者の個人記録に加えて、申し送りノートに発語内容などの記録を残すとともに、対応の工夫や気づきなどが記載され、職員間で共有することができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録を行っており、介護計画に沿った支援が行えているか、確認を行っている。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の生活の中での行動、様子を具体的に記録している。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ご利用者様、一人ひとり観察し、その都度記録に残している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	計画の見直し期間に応じて再アセスメントを行っている。			○	毎月末に、担当職員が生活記録で利用者の現状の確認を行うとともに、職員間で話し合いをしながら、生活記録の下部にある「ケアプランの評価・備考」の欄に、評価を残すことができている。また、短期目標等の期間に合わせて、定期的に介護計画の見直しをしている。さらに、必要に応じて、カンファレンスを活用して職員間で話し合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1回、担当者がモニタリングを行っている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院の後や、ADLが著しく変わった場合などにはプランの見直しやカンファレンスを行っている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1回ミーティングをユニット内で行い、ケアの方法を統一したり意見を求める機会をつくっている。			○	毎月、ユニット毎にミーティングを行い、職員間で利用者の現状確認を行うとともに、介護計画の見直し内容などの話し合いをしている。また、当日会議等に参加できない職員には、事前に意見を聞いている。さらに、会議の議事録は全ての職員に配布するなど、きっちりとした情報伝達が行われている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員が主体となって会議を行うことで意見交換をしやすい雰囲気となっている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出勤者が多い日に実施するようにしている。参加ができない職員からも事前に意見を求めるようにしている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成して配布するようにしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートに伝達したい内容を記載するようにしている。職員は出勤時に確認をするようになっている。			◎	事業所では申し送りノート等を活用して、利用者に関する情報が伝達される仕組みづくりができている。また、職員は出勤時に申し送りノート等を確認するとともに、確認後には職員本人の名前の欄に○印を付けて、確実な情報伝達に繋げている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り事項は申し送りノートや書面で周知するとともに、職員の業務の引継ぎ時にも伝達するようにしている。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の希望や訴えに耳を傾け、思い沿えるようにしている。				事業所では、利用者一人ひとりの一日の生活の流れを把握するとともに、日々の生活の中で、着る衣服を利用者自身が選んだり、レクリエーション活動を選択したりするなど、自己決定ができる機会を設けている。また、個別に新聞を配達してもらい、毎日読んでいる利用者もいる。さらに、雑誌を読んだり、畑で野菜づくりをしたり、編み物をするなど、利用者の好みや得意な活動を活かした支援にも取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	様々な場面で、ご利用者様の意向を聞くようにしている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ご利用者様が役割りと思ひて下さる事も、お伺いを立てるようにし、ご本人様が納得した上でできるように配慮している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりの生活リズムやペースに合わせて対応を行っている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	手伝って下さった事には、必ずお礼を言うようにしたり、楽しい事は共に喜ぶような雰囲気作りを行っている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情やしぐさから思いをくみ取り、支援に繋げるよう心掛けている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	接遇研修で利用者様の尊厳を傷つけない言葉かけや対応について学んでいる。	◎	○	○	事業所では、年間の研修計画を立てて、接遇研修を行い、職員は利用者の尊厳を大切にしたい支援に努めている。また、利用者へのかかわり方や声のかけ方など、管理者等はカンファレンスの時に気になる点がある場合には職員に伝えることを心がけている。さらに、居室への入室の際には、利用者に声かけをしてから入室をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	意識して行動をしているが、時折、できていないことがあるため意識付けを日頃から行うよう心掛けている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	入浴時の脱衣場や居室で排泄ケアを行う際には戸を開めてプライバシー保護に努めている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室の出入り等はノックをしたり声掛けをしたりしてプライバシーに配慮するよう意識して対応をしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	十分に理解をでき、遵守できている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事に参加して頂いた際や協力をしてくださったとき、利用者様から教えて頂くことがあった際には感謝の言葉を伝えている。				日々の生活の中で、職員は利用者により家事などを協力していただいた際に、感謝の言葉を伝えている。また、事業所では、意識して利用者同士が助け合いながら、生活が送れるような支援にも努めている。さらに、職員は利用者同士の関係性に配慮し、トラブルが起らないような雰囲気づくりを心がけている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	「共生」という意味を理解し、支えあって生活をされていると感じている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	世話役を買って出でくださる利用者様もおられ、上手に利用者様同士の関係を保っている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになりそうなどがある場合は、職員が介入させて頂き、程よい距離を保てるように支援をしている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	ご本人から伺ったお話や生活歴、家族様からの情報を基に把握するように努めおり、新たな情報等は共有するよう努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日々の生活をしていく中で伺ったお話を基に馴染みの場所などの把握に努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	知人や友人からの便りや面会があるが相手方も高齢であるため頻度は少ない。こちらから伺うことはできない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気軽に来て頂けるように家族様、知人の方などにはお伝えをしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外気浴や散歩などで戸外で過ごす時間をできるだけ作るようにしているが、毎日実施できていない。	○	×	○	コロナ禍においても、事業所では人との接触がないような配慮を行いながら、近隣の神社までお参りに出かけたり、事業所周辺を散歩したり、車を利用してドライブに出かけるなど、利用者が気分転換を図れるような支援をすることができている。また、天気の良い日には、車いすを使用している利用者も一緒に屋外に出て、庭で外気浴をしたり、お茶を飲んだり、畑でカブやそら豆などの野菜づくりなどを行うことができている。さらに、外出が減っている代わりに、事業所内でプランターに野菜を植えたり、しめ縄作りをしたり、夏祭りなどの行事を取り入れるなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援ボランティアの活用はできていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	外気浴をして頂き、外気に触れる機会をつくっている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族様と外出に行かれることはあるが協力して外出支援を行えてはいない。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	行動・心理症状について正しく理解が出来ていない場合もあるが、ご利用者様の状態に合わせて、向き合った対応が行えている。				事業所内研修等で、認知症をテーマに取り上げて、職員は認知症の行動や症状などを理解している。また、事業所では、利用者の心身機能を維持するために、「どの部分を介助すればできるのか」など、細やかで具体的なアセスメントを行うとともに、職員は声をかけをして、利用者自身ができることは自分でしてもらい、見守りや待つ介護などの対応を心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ベッドからの移乗時やトイレでの排泄時に、残存機能の活用を行うよう努めている。生活の中に体操の時間を取り入れ、身体機能の低下予防に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事、出来ない事の把握をし、無理強いすることが無いよう、本人の意思を尊重しながら対応している。	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	場面場面での、ご利用者様の言葉や表情から、楽しめる事、自信に繋がる事を読み取り、活動して頂いている。				洗濯物やタオルたたみ、調理の下ごしらえ、配膳、下膳、テーブル拭き、モップ掛けなど、事業所では利用者自身ができることをしていただき、役割や達成感などを感じてもらえるよう支援している。また、工作やちぎり絵で飾り物を作るなど、楽しみを活かした出番や役割づくりを取り入れることができている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	心身の状態を見ながら、その方にあった役割の持ち方を考えながら取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	新型コロナウイルスの影響で、感染予防の為、地域行事への参加が出来なかったが、状況を見ながら地域の一員として参加していきたい。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	その方の好みを伺いながら、可能な限り思いに添えるよう心がけている。				毎日、朝と夕方に着替えを行い、重度な利用者にもメリハリが感じられるような支援に努めている。また、自分で服を選び、着替えることのできている利用者があるなど、季節や状況に応じた服装ができるよう支援している。さらに、介護計画のサービス内容等に取り入れて、化粧やネイルなどのおしやれを楽しむことができている利用者もいる。加えて、食事の際には、なるべくタオルで対応し、食べこぼしや汚れが目立たないような工夫もしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	散髪時には、どのようにしたいか意向を聞くようにしている。会話の中から、好きな色や物の把握に繋げている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	身体の状態を考えながら、その方にとって何が必要か、何を求めておられるかを考え支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時には、季節に合わせ気温やその方の状態を考えながら、服装や掛物の調整を行っている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	離床時の整髪や髭剃り、食事中の食べこぼしに注意した対応を行っている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	2か月に一回のペースで、施設内での理容サービスを受けている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その方の状態に合わせ、好みや着心地の良さを考えながら、支援させて頂いている。			○	
17	食事を楽しむこと のできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	年間の行事に合わせた献立を考え、食事が楽しめるよう工夫を行っている。				事業所では、食材の宅配サービスを利用し、届けられた食材を、利用者に調理の下ごしらえやテーブル拭き、下膳などを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。事前に職員が毎月意見を伝えて、委託業者の管理栄養士がバランスの取れた献立を作成するとともに、利用者に季節を感じてもらえるような行事食も提供することができている。入居時等に、利用者の好き嫌いやアレルギーなど、食事に関するアセスメントを行い、アレルギーや水分量、刻み、とろみなど摂食機能に応じた食事形態などにも対応をしている。また、調理の下ごしらえなど、できることを手伝ってもらい、オープンキッチンからの匂いや音も加わり、利用者が食事を楽しみ、待ち遠しくなるような支援にも努めている。さらに、食事の際には、職員は利用者の見守りやサポートを行い、現在は感染対策で、別々に食事をしている。加えて、ミーティング等を活用して、食事の栄養バランスなどを職員間で話し合うことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食べたい物を献立に入れるようにしている。食後の下膳等、後片付けをして頂いている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食事前のテーブル拭き、下膳等、ご利用者様の力の発揮できる機会を作り、お礼を言うようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	現状ではアレルギーを持っておられる方はいらっしゃらないが、好きな物や苦手な物の把握はしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	宅配にて食材を配送して頂いている。食物アレルギーの方はいないが、利用者様の食の好みを把握できている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	ご利用者様の嚥下状態や咀嚼の状態を見ながら、食事の形態を決めている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れた食器や箸を使用して頂いている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事中は見守り声掛けを行っている。食器の配置換えを行いその方が食べやすいよう配慮している。食べこぼしの多い方には、エプロンやタオルを使用して、気にせず食事がとれるよう対応している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	においや音や声掛けで、食事作りの時間を感じて頂いている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	毎月、体重測定を行い、必要に応じて医師や訪問看護師に相談を行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	こまめに水分を提供したり、摂取しやすい食事形態を模索したりして、低栄養や脱水を予防している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員間で献立の栄養バランスの確認をしている。宅配業者には献立カレンダーを確認しながら随時アドバイスを頂くようにしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	新鮮な食材の使用と衛生管理に努め、食器類の消毒はこまめに行っている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアに関する研修を実施して、口腔内を清潔に保つことの重要性を理解できている。				毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りや介助をしている。自分で歯磨きをすることができている利用者も含めて、職員は磨き残しがないか確認するなど、全ての利用者の口腔内の状況を点検することができている。また、事業所では、週1回訪問歯科診療があり、歯科医などから専門的な助言をもらうことができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアを毎食後に行うことで把握ができている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	勉強会や指導等は受けていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯洗浄剤を使用し、適切に手入れが行えている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケア時に確認を行い確認を行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	必要に応じて受診をして頂いている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来るだけトイレでの排泄をして頂いている。排泄リズムの把握をし、失敗を防げるよう声掛け誘導を行っている。				事業所では、利用者一人ひとりの体調や排せつ状況を毎日チェックし、食事量や水分量などを踏まえて、排せつへのかかわり方を検討している。また、日中には可能な限り利用者に布パンツで過ごしてもらい、尿取りパッドなどを活用して、職員はできる限りタイムリーな交換を行うなど、蒸れが少ないような状態を目指した支援にも取り組んでいる。さらに、便秘の利用者には、食物繊維や水分を多く摂取してもらうほか、歩行や運動を取り入れるなど、職員は自然な排便ができるよう心がけている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分の種類にも工夫をし、水分摂取量を増やせるような対応をしている。食事にも野菜を取り入れ便秘にならないよう気を付けている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄表の確認や、職員間での情報共有により、個々の排泄パターンの把握は出来ている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人の状態や希望に沿いながら、日中と夜間のオムツの使用を検討しながらケアを行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	困難な思いをすること無く排泄ケアが行えるよう、職員間で話し合い検討しながら取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを把握する事で、その方に合わせた声掛け誘導が行えている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご家族様とも相談しながら、本人の負担にならないよう、オムツのサイズや使用する時間等の検討をしながら使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりのご利用者様の、時間や排泄状況に合わせてオムツの使い分けが行えている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分の種類にも工夫をし、水分摂取量を増やせるような対応をしている。食事にも野菜を取り入れ便秘にならないよう気を付けている。生活の中に歩行運動の時間を作り取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴時間の長さや温度等、ご利用者様の希望に沿いながら入浴して頂いている。	◎		○	事業所では、週2回の入浴支援を基本として、利用者の状況に応じた声かけや誘導を行っている。また、入浴時間の長さや湯の温度など、利用者の好みに応じた対応をしている。また、シャワーチェアや手すり、安易にスライドできる用品などを活用して、個別浴槽に車いすを使用している利用者も湯船に浸かれるよう工夫しながら、安心安全な入浴を支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりのペースに合わせ、ゆったりとした気分に入浴して頂くようにしている。声掛けのタイミング等配慮しながら対応しておいる。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身や洗髪を行う際に、出来る範囲でご自分で行って頂くように支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒まれる時には、理由を傾聴し、時間を空けたり日にちをずらす等、状態を見ながら対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェックを行い、様子の確認をした上で入浴して頂くようにしている。浴後には水分摂取をして頂いている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の、定期的な巡視の際に睡眠状態の観察を行い、睡眠パターンの把握をしている。				事業所には、本人の希望で眠剤等を服薬している利用者がいるものの、できる限り服薬に頼らない支援に努めている。また、日中の活動を工夫したり、日中の休息時間を活用したりするなど、様々な工夫を行いながら、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。さらに、現在はほとんどの利用者が良眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜眠れないご利用者様に関しては、その原因を探っている。日中の過ごし方の見直しを行い、体操や散歩等を取り入れながら、生活リズムを整えるようにしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	定期受診時に日々の様子を専門医に報告して、適切な処方されるように情報提供を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	体調や希望に合わせて、日中の臥床時間を作り、ゆっくり休んで頂くようにしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	テレビ電話で、ご家族様とご本人様が顔を見ながら話せるよう支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	家族様へ代わりに用事を伝えたり意思の疎通が困難な方でもオンラインによる面会を実施している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族様の都合など考慮しつつ可能な限り要望に沿えるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	利用者様にお渡ししたり必要に応じてお返事を書いて頂いている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話で話されることで安心して頂けることもあることを家族様には理解して頂いている。可能な限り協力して頂くように依頼をしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご自分で買い物ができることが自立支援に繋がることを理解できている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	家族様、職員が代わりに希望されているものを購入している。新型コロナウイルスの影響で買い物に行く機会がつかれていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	新型コロナウイルスの影響で買い物に行けていない。再開できた際には実施していきたい。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	現在、お金を所持されている利用者様はいない。ご本人、家族様が希望をされた場合は、相談をしながら所持ができるように支援したい。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	利用者様が所望される物品の購入などは家族様と相談をしながら購入させて頂いている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	現在、施設で金品の管理を行っていない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	できる限りニーズに沿えるように相談を行いつつ対応を行っている。既存のサービスだけでなく地域の資源を活かすことができるように努めている。	◎		○	コロナ禍において、事業所では外出や面会制限は設けられているものの、利用者や家族の要望には、相談を行いながら、可能な範囲で対応をしている。また、「娘に会いたい、入歯を調整して欲しい」などの要望が出され、事業所では、面会や外出、歯科診療など、利用者の個別ニーズへの対応にも努めている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関周りを常に清潔に保ち、花壇を設置して明るい環境づくりを心掛けている。	◎	◎	◎	併設されているデイサービスと共用の玄関にはガラス張りの自動ドアの設置があり、玄関内の見通しが良いほか、玄関フロアに事務スペースがあることから、職員は利用者や来訪者に気軽に声をかけることができる。また、玄関先にはプランターが置かれ、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	利用者様に馴染みのある時代のポスターを掲示したり、季節感のある掲示物、利用者様と一緒に作成したものなどを壁に掲示している。	○	○	○	事業所の廊下には、利用者と一緒に作った季節を感じる壁画のほか、椿や桜などの作品、似顔絵を描くのが得意な利用者が描いた職員の似顔絵が飾られている。また、毎月の行事写真のほか、昔の写真やポスターなども飾られ、利用者や来訪者が気軽に見て、会話が弾むよう工夫されている。さらに、オープンキッチンから、職員はリビングで過ごす利用者の様子を見渡すことができる。加えて、事業所内は毎日掃除や消毒、換気を行い、清潔で快適な環境が確保されている。2階のベランダからの眺めは良く、天気の良い日には、石鎚山系の絶景を眺めることもできる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除を行って、清潔を保っている。オムツの臭いがないように新聞で包むなどの対策も行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節を感じる事ができる写真や掲示物を壁に掲示している。午前にはコーヒーをドリップして淹れることで利用者様からも「いい香り。」と良い評価を頂いている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ホールにソファを設置してゆっくりテレビを見たりして過ごして頂けるようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室の使用時には戸を開めるように心がけて配慮を行っている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	在宅時に使われていたタンスや置物などを持参して頂き、馴染みのある環境で安心して過ごすことができるように支援を行っている。	○			居室には、電動ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられている。また、利用者は馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができ、テレビや家具、家族の絵、誕生日カードなどが飾られ、利用者に合わせて個性のある空間づくりができています。さらに、以前の職業で、白衣を飾っている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	一人ひとりが出来る事を職員が把握し、安全に配慮しながら、出来る事、したい事をして頂いている。			○	居室の入り口には、名札や目印となる造花などが飾られ、自分の部屋が分かりやすいよう工夫されている。また、事業所内には和式トイレの設置も残されており、在宅での生活習慣など、利用者の状況に応じて使用できるようになっている。さらに、事業所はバリアフリーの構造で、手すりも設置されているほか、廊下も十分な広さが確保され、利用者は安心安全に移動することができる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室やトイレ等、名札を付けて分かりやすい環境にしている。物品に関しては、分かりやすく使いやすい位置に置くなどの工夫をしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	各居室には、ご利用者の馴染みの物を置くようにしている。道具も分かりやすい場所に置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	○	鍵がかかっていることで生じる心理的な負担や家族様や地域の方への印象などを理解できている。外へ行きたいという気持ちのある利用者様への関わりは、否定をせずに意思を伺い傾聴をするように努めている。	◎	◎	○	事業所では、日中に玄関やユニットの入り口は開放され、利用者や来訪者は自由に出入りできるようになっている。また、事業所には、帰宅願望などの不穏な利用者もあり、職員の勤務体制などで、一時的にやむを得ず、ユニットの入り口を施錠する場合もある。さらに、適宜、利用者は庭や洗濯物干し場へ出入りすることもでき、閉塞感を感じられない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	構造上の問題もあり、話し合いはできていない。利用者様が望まれる際は屋外へ職員と出ていることはお伝えしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	玄関の鍵は開錠しているがユニットへの出入り口はオートロックのため自由に出入りできない。利用者様が希望される際は職員が付き添い屋外へ出るようにして、心理的な弊害が生じないようにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者様の既往歴、現病等については、入所時に把握出来ている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者様の身体状況や特徴は把握しており、変化が有った際には記録に残し、職員間でも共有している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	月に1回の往診時や週2回の訪問看護時には、気になる事を医師や看護師に相談している。異常が見にられた際には、報告指示を仰ぎ早めの対応を行い重度化の防止に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ご本人や家族が希望する医療機関への受診ができるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	医師への報告を密に行うことで適切な医療を受けられるように努めている。受診や往診時に利用者様、ご家族様の意思を伝えるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	かかりつけ医からの指示など必要に応じて家族様に報告を行っている。状況によっては受診に付き添って頂き、医師から直接診断や今後の方針などを聞いて頂くようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	認知症の周辺症状が悪化しないようにできる限りご本人の情報を提供するようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中も定期的に病院と連絡を取り、病状が施設で対応可能な範囲を相談している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	かかりつけ医が入院先を紹介してくれる。医師が入院する病院への引継ぎをしてくれることでスムーズに入院の手配ができています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護師の訪問が週に2回ある。同法人の訪問看護ステーションであるため気兼ねなく相談や報告ができる環境である。必要な指示や情報を得ることができている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護ステーションへ、24時間いつでも電話対応ができるようになっている。場合によって様子を見に来てもらっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	少しでも体調の変化があった場合はかかりつけ医や訪問看護ステーションに相談をして、医療職が判断をするようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋を職員が見ることができるようしており、薬の理解をするように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬は2人で確認をするようにすることで、誤薬や飲み忘れの予防に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	処方薬が変更されたときには特に注意を払っている。状況に応じて次の受診日より早く、受診を行ったりして利用者様に負担がないようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	心身の変化を観察して、記録化に努めている。看護師や医師への情報提供も行っている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時には、重度化した場合は看取りに関しても説明を行い、利用者様、家族様の意思を尊重して対応をさせて頂いていることをお伝えしている。				事業所には、「看取りに関する指針」と「重度化した場合における対応に係る指針」があり、入居時等に利用者や家族に説明をしている。また、事業所では、協力病院の医師や訪問看護ステーションの看護師との応援体制が整っており、利用者や家族、職員は安心感がある。さらに、定期的に実施する事業所内研修で、看取りに関する研修も行われ、職員は対応方法などを学ぶことができている。加えて、重度化や終末期には、家族や医師、関係者を交えて話し合い、方針を共有するほか、事業所内で対応できない場合には、病院や他の施設へ転院している利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化終末期の対応についてはかかりつけ医と相談をして施設で対応ができるかを判断している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	施設の設備や職員のマンパワーの把握に努め、終末期の対応をする場合に説明ができるようにしている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	施設の設備や環境などをお伝えするようにしている。理解を得られた上で、対応をさせて頂くようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	職員研修で看取り対応に関する研修を行っている。かかりつけ医と訪問看護ステーションと連携を図りながら支援できる体制ができています。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	こまめな近況報告を行い、分からないことが無いかなど相談がしやすいような関係性をつくるように努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症に関する研修を行ったり、管理者が感染症に関する情報を職員に提供することで知識・理解を深めるようにしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	嘔吐があった場合の対応キットを準備したり、新型コロナウイルス対策にガウンなどの備蓄品の補充を行った。想定される使用方法などについて周知に努めている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	市や県からの情報を管理者が確認することで、市内や県内の感染症の発生状況など情報を得られるようにしている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	包括支援センターや地域の役員の方から情報を得られている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は標準予防策の徹底を行い、施設へ持ち込まないように努めている。利用者様、来訪者に関しても手指消毒に協力して頂いている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には職員がご家族へ近況報告を行っている。些細なことでも報告するようにしている。				コロナ禍以前は、夕涼み会などの行事に家族の参加を呼びかけて、参加協力してもらうことができていたものの、現在は家族の呼びかけを自粛している。コロナ禍において、事業所ではガラス越しでの面会となっているものの、IT機器を活用したオンライン面会にも対応をしている。また、LINE機能を活用して、リアルタイムの利用者の写真などを送付するなどの対応もしている。さらに、年2回法人全体で広報誌を作成するとともに、日常の写真と担当職員が書いた手紙を家族へ届けることで、利用者の日常生活状況を理解していただけるよう工夫をしている。さらに、面会時には、積極的に職員から家族に声をかけて、利用者の様子を伝えるほか、意見や要望を聞き、対応をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時には明るい挨拶を行うように努めており、気軽にお話ができる関係性の構築を図っている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	外出や買い物など家族様と行かれている方もいる。新型コロナウイルスの影響で現在は実施できていない。	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	年に2回、広報誌を作成してお送りしている。運営推進会議の資料に活動の様子として写真を多く添付し、お送りしている。ケアプランの送付時にも職員からお手紙をつけて送付している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	電話や来訪時に知り得た、家族様の感じていることなどは、お答えするようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時など、認知症によって意思の疎通が難しくなった利用者様に職員が付き添い、家族様との良好な関係性が保てるように支援をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議の機会を利用して報告をさせて頂いている。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議の開催時に催しなどを予定している。開催が可能となった際には実施していきたい。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者様の気持ちを優先したケアが行えるように、安全策を講じるとともに、事故発生のリスクについても説明を行うようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時のあいさつや職員から積極的に家族様へ話しかけることで気軽に質問や相談ができる雰囲気づくりをしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には具体的に説明を行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に当たっては利用者が一番良い形で退居に移れるように家族様と話し合いを設けて支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	書面を基に説明を行っている。同意を得た上で契約を結んでいる。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を利用して説明を行い、地域に貢献できるように意識を持っている。	/	○	/	事業所では、地域の祭り毎に利用者と一緒に参加するなど、神輿が玄関先にまで来てくれる関係性が築かれている。また、コロナ禍以前は、公民館活動などにも参加することができていた。さらに、地域の民生委員や区長などの協力を得て、運営推進会議等を活用して話し合いをするなど、地域との関係づくりもできている。加えて、事業所前の道路を散歩する地域住民も多く、顔馴染みとなり、日常的に利用者が挨拶を交わす関係性もできている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	神輿の経路に入れて頂き、地域行事への参加をさせて頂いている。施設前の道を近隣の方が散歩に良く使われているためあいさつをさせて頂き関わりを持つようにしている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	近隣に住宅がありません。地域の役員の方が気にかけてくださっている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	気軽に立ち寄ったりしてくださる地域の方はいない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩に出かけた際にすれ違う地域の方とあいさつをしたり、お話をしたりする機会が増えつつある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	現状、ボランティアの受け入れを行っていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	施設の近くに池やお宮があり散歩コースとして利用させて頂いている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	市内の理容室に施設へ来て頂き散髪を依頼している。消防訓練の実施時には隊員の方に来て頂いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	地域の方には毎回参加して頂いている。家族様の参加者も増えつつあったが新型コロナウイルスの影響で文書開催となった。	◎	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、地区の区長、民生委員、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催をしている。コロナ禍において、現在は書面開催となっているものの、写真を多く掲載して情報提供を行うなど、利用者の日常生活の様子が分かりやすい会議報告を、参加メンバーや全ての家族に送付することができている。また、区長や民生委員、地域包括支援センター、市担当者から、要望や助言などをもらうとともに、事業所としての考え方も示すことができている。今後、管理者等は、「コロナ禍以前は地域の方々にも毎回参加していただいております。終息後には集合形式の会議を再開したい」などと考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	会議出席者だけでなく、参加できなかったご家族にも文書で報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者から頂いた意見に対して説明を行ったり、要望に対する取り組みを次の活動状況の報告でお伝えさせて頂いている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程の調整は参加される方の都合を伺い調整している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	いつでも閲覧できるようにファイリングして玄関ホールに設置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホームは生活の場であるため「家庭的な雰囲気」で安心して過ごして頂けるように意識をして支援を行っている。「尊厳」を守るために接遇には気を付けるようにもしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念を玄関ホールに掲示しており、入所時にお伝えをしている。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	施設内研修を毎月行っている。希望者は法人外の研修にも参加をして知識・技術の研鑽を図っている。				事業所では、研修の年間計画を作成し、接遇や看取り、医療行為、認知症などに関する内部研修を行うとともに、リモートでの外部研修などの参加を勧めるなど、職員のスキルアップに努めている。また、研修に参加した職員には、感想や目標を提出してもらうほか、ベテラン職員に就く形で新人職員の教育が行われるなど、法人・事業所として、日常的な事業所内研修(OJT)の体制づくりが構築されている。さらに、年1回、法人の施設長との個別面談が行われるとともに、職員は相談しやすい体制づくりができています。加えて、法人・事業所として、人事管理の評価やストレスチェックを実施するとともに、希望休や有給休暇の取得にも対応するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	新人職員や異動してきた職員には、ベテラン職員と一緒に勤務となるように組んでいる。業務内容だけでなく、利用者様の細やかなケア方法や介護技術や知識を伝える機会をとれている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の職員の評価を行い、賞与や昇給によって職員の努力や実績が反映されるようになっていく。希望休や有給休暇の取得も相談しやすいように管理者が心掛けている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会が主催する研修へ参加をすることで同業者との交流の機会を得ている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	施設長が管理者や職員と面談をする機会を設けて、職員の悩みや機能などを知ることができている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待防止に関する研修を行っている。接遇に関しても丁寧な言葉掛けを行うように意識をしている。全職員が不適切なケアに関しての理解をできている。				事業所では、虐待防止等の研修が行われ、職員は学んで理解をしている。また、日々の業務の中やミーティング、研修等を活用して、どのような行為が不適切なケアに該当するかなどを職員間で話し合う機会も多く、職員同士で注意し合える雰囲気づくりができています。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者が職員のケアで気になることがあれば指導を行っている。どのように接すれば良いかを職員と一緒に考えている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員ひとりひとりが虐待や不適切なケアが見逃されないよう注意を払っている。また、どのような場面・状況が不適切なケアに当たるのか日々話し合っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	労務管理を行っている管理者が、できる限り運動が多くならないように勤務を作成するようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員ひとりひとりが、身体拘束にあたる事例や具体的なケース等を話し合い、理解している。研修会も定期的に行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者の現場の状況に合わせて定期的に点検して随時、どのような事象が身体拘束に当たるのか話し合う機会を設けている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を行っている方は、おられないがその弊害について職員間で理解を深めている。ご家族の方にも「身体拘束しないケア」について理解をして頂いている。				

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	管理者は理解を深めるように取り組んでいるが、全職員に周知徹底するよう努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	評価期間で制度を紹介する機会や相談はなかった。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要な利用者が制度を利用できるように専門機関と連携を図っている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時のマニュアルがあり、いつでも職員が確認できる位置にある。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	全ての職員がAEDの使用法や応急手当を定期的な研修を通じて確認している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットの作成を行い、職員間でリスクの共有に努めている。軽微な内容でも報告を行うよう職員に指示している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンス時にリスクマネジメントに関しても議題に上がることが多い。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは作成している。苦情に対して真摯に向き合うように努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情を受けてはいないが、利用者様や家族様からの苦情はマニュアルの沿って対応を行うようになっている。利用者様、家族様の意見へ耳を傾けるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情等や要望に関する事案は、速やかに対処するようにしている。経緯や結果等も記録するようになっている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議への参加を勧めたり、普段から利用者様へ耳を傾けて要望を言いやすい機会をつくっている。			○	日々の生活の中で、職員は利用者から気になることや意見などを聞き取り、相談の上で対応をしている。定期的に家族から意向を確認する機会があり、意見や要望などを聞くほか、面会時に職員から声をかけ、要望や相談に応じている。また、事業所の玄関には意見箱を設置するとともに、苦情受付などの連絡先も掲示されている。さらに、日々の業務の中で、管理者は職員からその都度意見や要望を聞くほか、ミーティングの中でも意見などを聞く機会を設けることができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族様の面会時や運営推進会議を通じて個別に要望や意見を聞く機会を設けている。ケアプランの見直し時もお手紙で意見を頂くようにしている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情に関する相談窓口の情報を玄関ホールに掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者が職員と面談を行い意見や要望を聞く機会がある。管理者が代弁して代表者へ報告を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的なミーティングにおいて、職員の意見や提案・要望事項などを聞く機会を設けており、反映している。			○	

愛媛県グループホームウェルケアみどろ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解できており、各々の職員が自身の振り返りになっている。				外部評価の自己評価は全ての職員で取り組み、意見を出し合いながら作成を行うとともに、今後の目標を作成して実践している。また、サービスの評価結果は、運営推進会議などの中で報告しているものの、十分な取組み状況のモニター機能までには至っていない。コロナ禍の収束後には、運営推進会議を活用して、サービス評価の取り組みやモニター機能を再度説明を行い、会議の参加メンバーや家族にモニターの協力を呼びかけたり、行事と合わせて会議を開催したりするなど、モニターの体制づくりを行い、意見を取り入れながら、さらなるサービスの向上に活用されることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の課題が明らかになることで、今後の取り組み活かすことができるようになっている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	自己評価の結果を通して可能な目標達成をつくり、全体で取り組みを行っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議などで公表して助言を頂くようにしている。モニターとしての依頼まではできていない。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	運営推進会議などで公表して助言を頂くようにしている。経過報告は随時行うように努めている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	様々な災害（火災、地震、風水害など）を想定したマニュアルを作成して手に取れる位置に置いている。				法人・事業所として、火災や地震、風水害などに関するマニュアルを作成している。事業所では併設のデイサービスと協力をしながら、年2回、昼夜や様々な災害を想定した避難訓練を実施している。また、災害の発生時には、建物2階への垂直避難や、法人の他の施設への避難を予定している。さらに、法人として、水や食料などの備蓄品を用意することができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年間計画で災害を想定した訓練を実施している。夜間想定も行っており利用者様も参加して頂いている。併設のデイサービスセンターも合同で行うことで防災意識を高めている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備の点検や修理などは、外部機関にて定期的に行っている。非常災害時の非常食や備品など保管場所を定め、定期的に賞味期限などの点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署立ち合いのもと、火災訓練を行ったりしており協力・支援体制を図っている。	△	×	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の防災に組み入れしてもらっている。地域の役員の方から情報を提供して頂いている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議の機会で認知症ケアや介護に関しての情報発信を行っている。				複合施設・事業所として、地域住民からの理解は深まりつつあるものの、相談実績は少ない状況となっている。また、事業所前が地域の「ちよい乗リタクシー」の停留所として、協力することが決定しており、地域への貢献活動にも協力をしている。今後は、地域の認知症に関する拠点として認識されるように、法人や地域包括支援センターなどの関係機関と協力をしながら、より多くの相談にも対応できるように地域との繋がりを強化したり、積極的に地域における認知症への理解を深めたりできる活動を行われることを期待したい。さらに、市行政や地域包括支援センター、他の事業所などと連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の高齢者の方から相談があれば、相談支援を行いたい旨を地域の役員の方に伝えている。相談等の実績はない。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	地域の秋祭りには、事業所を使用してもらい、地域の人たちが集う場所として活用して頂いている。今年度は新型コロナウイルスにより開催できなかった。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	労働安定所からのご紹介で研修生の実習の場として提供をしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域の「小野地区福祉の集い」には毎年参加させて頂き、地の一員として活動を共にしている。今年度は新型コロナウイルスにより開催がされなかった。			○	